

がつ にち もく れいわ ねんどとうしょよさん あん
2月9日(木) 令和5年度当初予算(案)

きしやかいけん しつぎおうとうようし
記者会見 質疑応答要旨

なると うずっ子 こ がくりよくこうじょう 学力向上パッケージについて

きしや
(記者)

けんない はじ がくりよくちょうさ
県内で初めてとされています「なると学力調査」につきまし

たいしょう しょうがく ねんせい ちゅうがく ねんせい ぜんがくねん じっし
て、対象は小学4年生から中学3年生までの全学年で実施され
るとのことでしょうか。実施時期や回数等も決まっておりました
おし くだ
ら教えて下さい。

れいわ ねんどいこう じっし よてい
また、令和5年度以降も実施を予定されているとのことでは
ようか。

ししよくいん
(市職員)

さいたまけん じっし がくりよくじょうきょうちょうさ かつよう
埼玉県が実施している学力状況調査を活用させていただき
ますので、そちらとの兼ね合いもありますが、令和5年度につき

ましては、^{しょうがく ねんせい}小学4年生から^{ちゅうがく ねんせい}中学3年生までの^{がくねん}すべての学年で5

^{がつ じっし よてい}月に実施を予定しております。また、^{れいわ ねんどいこう ねん かい}令和5年度以降も年1回の

^{じっし よてい}実施を予定しております。

^{しちょう}
(市長)

^{ほそく じっしかもく しょうがっこう こくご さんすう}
補足として、実施科目については、小学校が国語と算数、

^{ちゅうがっこう こくご すうがく きょうか よてい}
中学校が国語と数学の2教科をそれぞれ予定しています。

^{にんちきのうきょうか} コグトレ(認知機能強化トレーニング)について

^{きしや}
(記者)

^{よさんがく おお しゅうがくまえ しょうがっこう}
予算額はあまり大きくありませんが、就学前から小学校

^{ていがくねん じっさい おこな ないよう おし}
低学年において、実際にどういったことを行うのか、内容を教
えてください。

^{しちょう}
(市長)

まず、「コグトレ」というのは、^{にんちきのうきょうか}認知機能強化トレーニングであ

り、コグニティブトレーニングを略して、コグトレという呼び方を
しております。

にんちきのう きおく げんごりかい ちゅうい ちかく
認知機能には、「記憶」、「言語理解」、「注意」、「知覚」、

すいろん はんたん こうせいようそ きょうか
「推論・判断」の5つの構成要素がありまして、これらを強化す

るために、「数える」、「覚える」、「写す」、「見つける」、「想像す

る」といった力を伸ばすトレーニングになります。

たと うつ てん てん
例えば、「写す」トレーニングであれば、点と点をつないだ

みほん え み じぶん てん てん むす おな え か
見本の絵を見ながら、自分で点と点を結んで同じ絵を描いて

みるといったように、直接的な学習と感ずることなく、パズルや

ゲームのような感覚で、学習の土台を固めていくことができま

す。たんじかん おこな がっこう あさ がくしゅうじかんと
短時間で行うことができますので、学校の朝の学習時間等

かつよう けいぞくてき じっし そうてい
を活用して、継続的に実施していくことを想定しています。こう

ずけい すいけい くんれん しゅうがくまえ
した図形をなぞる、推計をしていくといった訓練を、就学前から

つづ おも
続けていけたらと思っています。

きしゃ
(記者)

しゅうがくまえ たいしょう ほういくしせつ ようちえん
就学前も対象となっておりますが、保育施設や幼稚園などの

しせつ おこな かにい おこな
施設で行うのか、それとも家庭で行うのでしょうか。

しちょう
(市長)

しせつ じっし ちゅうしん そうてい
施設での実施が中心になると想定しています。

えいけんじゅけんりょうぜんがくほじょじぎょう
英検受験料全額補助事業について

きしゃ
(記者)

こんかい ほじょりつ ふくすうかいすうじゅけんかのう
今回、補助率のアップとともに複数回数受験可能とされてい

げんじょう ねん かい ひとり かい かいすうせいげん
ますが、現状は、「年1回」もしくは「1人1回」といった回数制限

もう
が設けられているのでしょうか。

しちょう
(市長)

げんざい きょしゅせい きぼうせい ねん かい ちゅうがっこう
現在は、挙手制(希望制)で年1回となっております。中学校

そつぎょう じしん えいごりよく なん じしん
を卒業するまでに、ご自身の英語力について何らかの自信を

も 持ってもらいたいのので、その一環として英検資格の取得を目指
していただいています。

らいねんど かい 1回のチャレンジだけで合格が難しいのであ
れば、2回目、3回目も後押しするという形に拡充しています。

ほいくしょうしょうず しょうぶんしえんじぎょう
保育所等使用済みおむつ処分支援事業について

きしゃ
(記者)

げんじょう おお しせつ かく かてい も かえ
現状で多くの施設では、各ご家庭でおむつの持ち帰りしてい
るとのことですが、現状でおむつを必要とされている年代のお
こ かよ しせつすう しょうず
子さんの通われている施設数と、このうち使用済みおむつを
ほごしゃ も かえ しせつすう おし
保護者が持ち帰りしている施設数を教えてください。

ししよくいん
(市職員)

れいわ ねんど たいしょう しせつすう こうりつほいくしょ しょ しりつ
令和5年度に対象となる施設数は、公立保育所1か所、私立
ほいくしょ しょ しりつにんてい えん しょ けい しょ
保育所11か所、私立認定こども園3か所(計15か所)となりま
がつ ちょうさ おこな けっか こうりつ ふく しせつ かく かてい
す。1月に調査を行った結果、公立を含む11施設が各ご家庭

におむつの持ち帰りを依頼している状況です。

この度、園での処分に係る補完用具の購入に対し、国が

補助金を創設したことや、市独自に処分費用を負担することに

よって、数字が改善するであろうと見込んでおります。

事業全体について

（記者）

たくさんの事業をご紹介いただいたのですが、どんな鳴門市
になってほしいのか、どのような変化を描いて、このような事業
のラインナップになっているのでしょうか。

（市長）

人口減少対策のために、まずは何ができるのか考えた中
で、鳴門市の現状として、これまで子育て世帯の方が市外に
転出していくケースが非常に多いというデータがあります。

こどもの数も、コロナ禍もあって減少が進んでおりまして、

しゅっしょうすう にんだい にんだい か
出生数も400人台から 300人台になり、コロナ禍においては
とうとう200人台となりました。

ここで、「なるとしいきない鳴門市域内での GDP」というしてん かんが視点で考えましたと
ころ、このすうじ み数字を見たときに、まずはひと ふ人が増えていかなければ
いけないというおも思いがありました。まずはこ子どもたちをしえん支援す
ることによって、(てんしゅつ おお転出の多いこそだ子育て世帯のせいじゆうじんこう ふ定住人口を増やし
て)市内にしなひ人が増えていくことで市内の GDP があ上がっていく
だろうとかんが考えました。

もうひとつは、がくりよくこうじょう しえん学力向上を支援することでしみんひとりひとり市民一人一人の
GDP をあ上げていくことにつな繋がるだろうとかんが考えて、このがくりよくしえん学力支援
もくわつけ加えさせていただいております。

ことし今年、ねんめ むか76年目を迎える鳴門市が、「なるとしあらたな めざなると」を目指
すために、まずはこ子どもたちのしえん支援からはじ始めていくというところ
がこんかい きほん今回の基本になっており、これは、ねん せんきよ とき2021年の選挙の時に、
しみん みなさま やくそく市民の皆様にお約束をした内容のないよう ひと一つでございませう。

こそだ しえん こそだ せたい ていじゅう しきく
子育て支援により、子育て世帯に定住していただく施策を

しゅうちゅうてき おも れいわ ねん
集中的にやりたいという思いがございまして、令和4年から

れいわ ねん ねんかん しゅうちゅうてき と く
令和7年までの4年間で集中的に取り組んでまいります。

ことし ねんめ よさんがく やく ぼいちか
今年^{ことし}は2年目^{ねんめ}になりますのが、予算額^{よさんがく}も約^{やく}2倍^{ぼいちか}近く^{ちかく}になって

おりますが、さいしゅうてき さいじ ほいくりょうむしょうか かくじゅう ふく
最終的^{さいしゅうてき}には、0歳児^{さいじ}の保育料^{ほいくりょうむしょうか}無償化^{むしょうか}への拡充^{かくじゅう}を^{ふく}含

めて、じぎょう けんしょう ひつよう つづ あらた
め^{めて}て、事業^{じぎょう}を検証^{けんしょう}しながら、必要^{ひつよう}なもの^{もの}は^は続^{つづ}けて^ていく、改^{あらた}め^めな

いと いけないものは、さいへん ねんかん
いと^{いと}い^いけ^けない^{ない}もの^{もの}は、やめ^{さいへん}たり、再^{ねんかん}編^{かん}したり^{たり}して、この4年^{ねんかん}間^{かん}で

てっぺいてき しゅうちゅう おも
徹^{てっぺいてき}底的^{てき}に^{しゅうちゅう}集^{しゅうちゅう}中^{ちゅう}して^てや^{おも}っ^てて^おい^もき^もたい^もと思^{おも}っ^てて^おり^もま^もす^も。

とくしまけんない すいけいじんこう てんにゅう てんしゅつ
ちな^{とくしまけんない}みに^{すいけいじんこう}徳^{とく}島^{しま}県^{けん}内^{ない}の^{すい}推^{けい}計^{じん}人^{こう}口^{こう}に^{てん}お^{にゅう}け^るる^{てん}、^{てん}転^{しゅつ}入^つ・^つ転^つ出^つと^いい^った

しゃかいどうたい み へいせい ねん にん れいわがんねん
社^{しゃ}会^{かい}動^{どう}態^{たい}を^み見^ます^すと、平^{へい}成^{せい}30年^{ねん}は^{にん}マ^いイ^なス⁴⁰⁶人^{にん}、令^{れい}和^わ元^{げん}年^{ねん}

は^{にん}マ^いイ^なス³²⁵人^{にん}、令^{れい}和^わ2年^{ねん}は^{にん}マ^いイ^なス²³⁴人^{にん}、令^{れい}和^わ3年^{ねん}は^マ

イ^なス¹⁵⁸人^{にん}と、ず^みっ^けと^た三^{げん}桁^{だい}台^{げん}の^{げん}減^{だい}とな^{げん}って^{げん}お^りま^した^た。こ^れが^が、

れいわ ねん かん がつ がつ あいだ
令^{れい}和^わ4年^{ねん}に^{かん}関^{かん}し^まし^ては、1月^{がつ}か^ら12月^{がつ}ま^での^{あいだ}間^{あいだ}で^マイ^ナス⁸⁶

にん にけただい
人^{にん}と^に二^に桁^け台^{だい}に^とど^まっ^てい^ると^のこ^とで^した^た。

せいさく こうか う
で^すか^ら、こ^の政^{せい}策^{さく}の^{こう}パ^っケ^ージ^うが^{こう}効^か果^くを^う生^うん^でい^るの^かと

いふくところもけんしょう含めておこな検証を行って、つぎ次なるものへすす進んでいき、
「つくあらたな なると」を創っていきたいとおもっております。

きしゃ
(記者)

がくりよくこうじょう学力向上で GDP をあげるといったてん点について、もうすこ少しふ踏
こみ込んで、がくりよく学力をあげることにちからここまでい力を入れたこと、じゅうてん重点
おを置いたことについておもコメントをいただけたらと思ひます。

しちょう
(市長)

なるとし鳴門市からこそだ子育てせたい世帯がてんしゅつ転出していくひとつのよういん要因として、
こそだ子育てのしえんさく支援策というのもありますが、いちばん一番はがっくせい学区制のはなし話が
おもあると思ひています。とくしまけん徳島県では、がっく3つのさだ学区がさだめ定められてい
なるとして、だい鳴門市はがっく第2学区となつています。だい第1学区のとくしましな徳島市内に
むかしは昔からのしんがくこう進学校があつて、そこになるとし鳴門市からしんがく進学するばあい場合、
だい第1学区のがっく子どものこ点数よりも、てん80~90点ほどおお多くのてん点数が
ひつよう必要となります。これは、ほか他のがっく学区からのりゅうにゅうりつ流入率をせいげん制限されて

いるからですが、「^{けんりつこうこう} 県立高校^{なか} の中^{がっくせい} で学区制^{おな} をしかれ^{けんない}、同じ県内
なのに、^{きょじゅうち} 居住地^{にゅうがくじ} で入学時^{せいげん} の制限^{せいげん} がある^{せいげん} というのはおかしいので
はないか」と^い 言い^{つづ} 続けて^{つづ} きました。

もし、^{がっくせい} 学区制^{かいしょう} の^{むずか} 解消^{むずか} が^{ばあい} 難しい^{きほんてき} となった^{きほんてき} 場合^{きほんてき}、^{きほんてき} 基本的^{きほんてき} には
^{がくりよく} 学力^{こうじょう} の向上^{こうじょう} を^こ してい^こ ければ、^{じぶん} 子ども^{もと} たちも^{こうこう} 自分^い が^い 求める^い 高校^い に行^い
ける^い よう^い になります^い。

なおかつ、^{いま} 今^こ の^{せいかつかんきょう} 子ども^{かてい} たち^{かんきょう} の^{さまざま} 生活^{さまざま} 環境^{さまざま} ・^{さまざま} 家庭^{さまざま} 環境^{さまざま} も^{さまざま} 様々^{さまざま} で^{さまざま} ござ^{さまざま}
います^{さまざま} の^な ため^な に、^な こう^な した^な 中^な で^な 必要^な 最低^な 限^な に^な なる^な も^な の^な は、^な 鳴^な 門^な 市^な
である^な 程度^な バック^な アップ^な して^な あ^な げて^な、^な 将^な 来^な に^な お^な い^な て^な 可^な 能^な 性^な の^な あ
る^な、^な 未^な 来^な の^な み^な える^な、^な 夢^な が^な ある^な よう^な な^な 環^な 境^な づ^な くり^な を^な、^な 我^な 々^な が^な 可^な 能^な
に^な や^な っ^な て^な い^な き^な たい^な と^な 思^な っ^な て^な お^な り^な ます^な。

^{れいわ} 令和^{ねんど} 5^{きてん} 年度^{きてん} を^{らねん} 起^{さらいねん} 点^{こうじょう} と^{こうじょう} して^{こうじょう}、^{こうじょう} 来^{こうじょう} 年^{こうじょう}、^{こうじょう} 再^{こうじょう} 来^{こうじょう} 年^{こうじょう} と^{こうじょう} 向^{こうじょう} 上^{こうじょう} して^{こうじょう} い^{こうじょう}
ける^{こうじょう} よ^{こうじょう}う^{こうじょう} な^{こうじょう} こ^{こうじょう} と^{こうじょう} を^{こうじょう} 考^{こうじょう} え^{こうじょう} て^{こうじょう} い^{こうじょう} き^{こうじょう} たい^{こうじょう} と^{こうじょう} 思^{こうじょう} い^{こうじょう} ます^{こうじょう} の^{こうじょう} ため^{こうじょう} に、^{こうじょう} 先^{こうじょう} ほど^{こうじょう} 申^{こうじょう} し^{こうじょう} 上^{こうじょう} げ^{こうじょう} ま
した^{こうじょう} 通^{こうじょう} り^{こうじょう}、^{こうじょう} こ^{こうじょう} の^{こうじょう} 4^{こうじょう} 年^{こうじょう} 間^{こうじょう} の^{こうじょう} 集^{こうじょう} 中^{こうじょう} 期^{こうじょう} 間^{こうじょう} で^{こうじょう} ど^{こうじょう} こ^{こうじょう} ま^{こうじょう} で^{こうじょう} 可^{こうじょう} 能^{こうじょう}
に^{こうじょう} や^{こうじょう} っ^{こうじょう} て^{こうじょう} い^{こうじょう} き^{こうじょう} たい^{こうじょう} と^{こうじょう} 思^{こうじょう} い^{こうじょう} ます^{こうじょう}。

そこには^{とうぜん}当然、^こ子どもたちからの^{ていあん}提案もありますし、^{ほごしゃ}保護者

^{みなさま}の皆様からの^{ていあん}提案もあって、それを^う受けて^{あら}新たな^{しさく}施策を^{てんかい}展開し

^{おも}ていきたいと思っております。

^{ひとり}一人ひとりが^{じぶん}自分の^{みらい}未来に^{じしん}自信がもてて、^{ゆめ}夢がもてるような

^{じょうきょう}状況をつくって^{おも}いきたいという^{いちばん}思いが一番です。